

明治6年の松江城からの眺め

庶民が初めて天守から見た松江城下

築城以来 260 年間近く、江戸時代を通じて松江藩主の居城であった松江城は、明治維新により大きな転換期を迎えます。

明治2年（1869）松江城は明治政府の陸軍省の所管となって、その2年後には松江藩も無くなります。

さらに2年後、松江城が初めて一般に公開されます。明治6年（1873）9月10日から10月10日にかけて、松江城で博覧会が開催されたのです。

展示品はそのとき天守に登った者が、上階から四方を眺望した風景を描いたものです。

数年前まで藩主など限られた者しか見ることのできなかつた天守からの松江城下を、人々は初めて目にしましたのです。天守へ登った人々は大きな時代の転換を肌で感じたことでしょう。



（奥書）
 往昔秀吉の命を蒙り、堀尾帯刀居城を能義郡月山より松江に移し城郭再建あり、亀田の城と云、後寛永年中より松平直政侯の居城也、明治六年癸酉九月県庁の許可を得て、本月十日より十月十日迄の日数中城内におゐて博覧会を筵席し、天守に遠目鏡を備、衆庶群をなし、四方眺望する所の絵図面なり

吉田氏珍藏

松江亀田城内より眺望図 1巻 28.9cm×263.8cm 個人蔵

「松江城之図」「松江城ヨリ東眺望之図」「松江城ヨリ西眺望之図」「松江城ヨリ南眺望之図」「松江城ヨリ北眺望之図」の5枚の刷り物をつなげて巻物に仕立てている。「彫工 布野豊」とある。奥書より明治6年（1873）9月10日から10月10日にかけて松江城で博覧会が開催された際に天守の上階から四方を眺望した絵図であることがわかる。